

## [特別企画1]

『献血ができなかった人数』全国トップからの脱却！  
—不採血率低減への繋がる取り組み—

寺内妙子，河原郁代，岡本悦子，吉川里美，安原武志，平井みどり

兵庫県赤十字血液センター

## はじめに

血液事業全体で導入した『事業改善に向けたマネジメント体制』を活用し、近畿ブロックおよび全国の血液センターと対比できる表を、所内全体で情報共有したことで、平成29年度当センターの『献血ができなかった人数』の割合が15.9%と全国トップだったことが判明した。さらに前年度に比べ「不採血率」が増加傾向であることも分かった。そこで、採血部門として、最優先で取り組むべき課題を“不採血率の低減”とし、対策を検討し実施した結果、不採血率を低減することができた。さらに、この取り組みにより、初回献血者や複数回献血者率の向上、若年層献血者の確保にも繋げることができたので報告する。

## 取り組み内容

当センターの不採血内訳を分析した結果、血色素低値58.1%に次いで多かった『その他不採血』17.9%を検討課題とし、中でも原因の6割強を占めていた『細血管』と『時間なし』に着目した。献血推進部門の協力を得て、献血者情報を確認しながら以下の取り組みを行った。

## 1. 細血管対策

前回『細血管で献血がお願いできなかった方』『女性の初回献血者』を対象者とし取り組みを行った。対象者が来所の際、受付前に血管確認を行うことで、本採血側の腕を10分から15分カイロで温めるよう努めた。待合室では、体を冷やさぬよう温かい飲み物を摂取する必要性を説明した。以上のことより、血管確認の際には、保温効果で安全に本採血穿刺ができる血管の状態となるよう環

境を整え不採血への改善を図った。また、細血管で不採血になった方を対象に、次の献血に繋げる目的と献血のため足を運んでくださったことが無駄ではなかったと思っていただけるよう、当センターで作成したリーフレットを使用し説明を行った。

## 2. 献血者待ち時間なしへの対応

受付職員の協力を得て初回献血者や久しぶりの方を対象に、献血に要する時間や手順を丁寧に説明することとした。さらに、献血者が待ち時間を有意義に過ごせるよう、ルームでは本や雑誌の充実、イベントの開催など環境づくりに努めた。献血者はこれらを利用、参加することで、献血までの待ち時間を前向き、かつ有効に利用していただくことを目的とした。

## 結 果

センター全体で取り組んだことで『その他不採血率』は、平成29年度の17.9%から、平成30年度には15.0%へと改善することができた（図1）。さらに、施設別についても平成30年度の『不採血率』は、すべての施設において低減することができた（表1）。中でも『姫路駅前通出張所』は、不採血率を4割以上低減することができ「細血管」への取り組みが最も効果的な施設であったと考える（表1）。このことは2019年5月「兵庫県下で高校生献血者数が7カ所ある献血ルームの中でトップであった」とメディア（神戸新聞）に取り上げられるまでの効果に繋がった。これらは結果的に、兵庫センターの『10代の献血者数』にも波及し、29年度の献血者に占める10代の割合が4.6%から

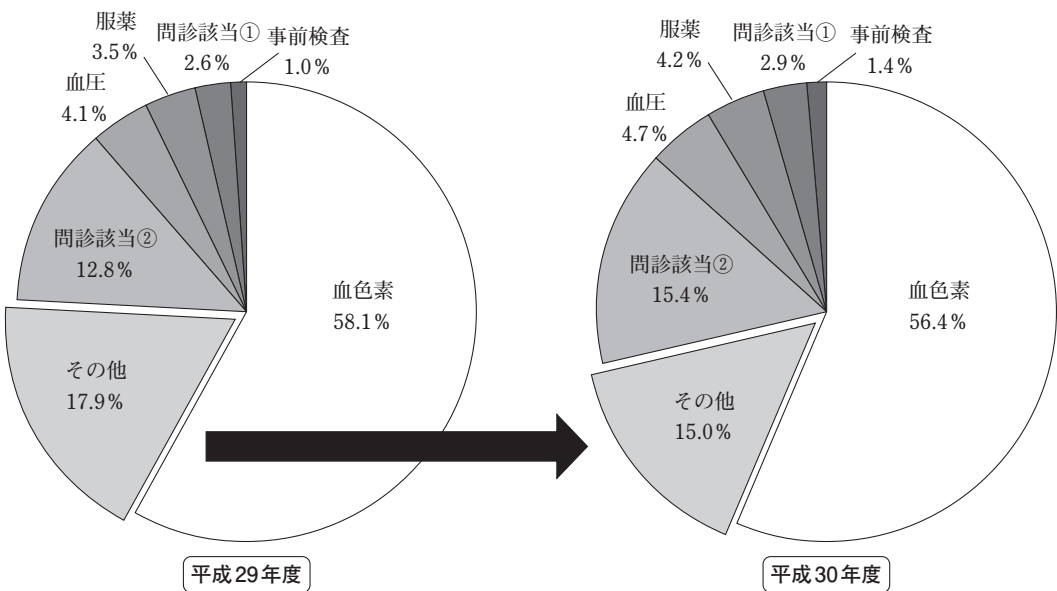


図 1 不採血内訳

表 1 施設別不採血率

施 設	平成 29 年度	平成 30 年度	不採血率比
兵庫採血課 (移動採血)	20.5%	18.5%	－ 2.0%
姫路採血課 (移動採血)	18.1%	15.5%	－ 2.6%
豊岡出張所 (移動採血)	13.8%	10.9%	－ 3.0%
三宮出張所	12.5%	10.5%	－ 2.1%
運転免許試験場出張所	13.1%	10.3%	－ 2.8%
尼崎出張所	8.2%	6.7%	－ 1.5%
三宮センター街出張所	18.8%	17.7%	－ 1.1%
新長田出張所	14.1%	9.7%	－ 4.3%
西宮出張所	12.7%	11.6%	－ 1.1%
姫路駅前通出張所	17.3%	10.2%	－ 7.0%

4.9%まで増加することとなった。

兵庫センターでは“細血管対策”および“献血者待ち時間への対応”に取り組んだ結果、副作用が増加することなく、平成30年度の『献血ができなかった人数』の割合を13.3%と平成29年度の15.9%に比べ2.6%低減することができました、平成30年度の受付者数は平成29年度に比べ減少したが、反対に献血者数は増加し(表2)、採血率を84.7%から86.7%と伸ばすことができ、年間プラス6,000人の献血者にご協力いただける結果を生む

こととなった。

考 察

センター全体で目標を達成するためには、個々の取り組みが大きく作用する。また、目標に向かって向上心を持ち続けることはとても重要なことである。今回、血液事業本部からの情報を活用しセンター内で共有したことは、個々の職員が問題意識を持って業務に従事するようになり改善への意識醸成に繋げることができた。とくに今回の取

表2 年度別不採血率比較表

(血液事業年度報より抜粋)

年度	地域	受付者数(人)	献血者数(人)	不採血率
平成29年度	全国	5,405,268	4,732,141	12.5%
	近畿ブロック	931,587	810,877	13.0%
	兵庫センター	237,369	199,539	15.9%
年度	地域	受付者数(人)	献血者数(人)	不採血率
平成30年度	全国	5,378,634	4,777,474	11.9%
	近畿ブロック	921,642	809,660	12.2%
	兵庫センター	231,464	200,618	13.3%

り組みは、これまでの若年層への取り組みにより来所した献血者を、継続的な献血へと繋げることに効果的な取り組みであると考え。さらに施設別で進捗状況を定期的に発信したことは、個々の職員が達成度を随時確認することができ向上心の維持に効果的であった。結果的に目標に向けセンター全体に連帯感が生まれ、改善に大きく繋がったと考える。

#### まとめ

当センターでは、『不採血率低減への取り組み』に加え『血液製剤の安定供給』に向け、『献血ルームイベントの取り組み』や、『若年層セミナーの開催』など、献血者率向上に向けた取り組みを継続している。血液事業は、献血者の善意で成り立っていることを念頭に、より多くの献血者にご来場いただけるよう安全かつ安心が提供できるセンターへ成長していきたいと考える。